



2021年9月9日  
在日米商工会議所

## ACCJ、ワクチン接種デジタル証明規格として 北米 SMART Health Card (SHC)の承認を要望

(英語正文)

在日米商工会議所（ACCJ）は、昨今より感染力の高い変異株の出現を受け、新型コロナウイルス感染拡大の抑制と、すべての在留外国人を含む全住民へのワクチン接種の加速を実現するための日本政府による取組みを称賛いたします。また、ワクチンパスポートとしても知られるワクチン接種証明書の発行に向けた日本政府の取組みも、全面的に支持いたします。

多くの国々では、QRコード等の電子的に検証可能なワクチン接種証明の必要性が国際往来や国内利用において高まっています。日本では、国内で承認された新型コロナウイルスのワクチン接種を完了された方々に対して、2021年7月より紙のワクチン接種証明書の発行が開始されました。日本政府は、2021年の終わりまでに、このような証明書のデジタル化を目指しているものと理解しています。最終的に採用されるデジタル証明書の具体的な形式やシステムに関わらず、それが既に広く受け入れられているデジタル証明書と連携し、相互運用性が高いこと、信頼性のある既存あるいは新規の形式や基準と柔軟かつ、円滑に相呼応すること、そして、例えば、米国やカナダ等で、デジタル証明書を既に取得済みの方々や、海外でワクチン接種を受け、デジタル証明書ではなくても正式な紙の証明書を保有する日本在住の方々を除外することなく、相互運用できるものであることを確実にすべく、日本政府に要請いたします。

例えば、SMART Health Cards (SHC)は米国とカナダで広く使われているデジタル証明書の検証可能な認証基準のひとつで、国際的にも受け入れられており、高度な汎用性、他システムとの相互運用性があります。デジタル証明書として、SHCを含む、複数の国際的な形式が承認されることを日本政府に要望いたします。以下の理由から、承認される形式の中にSHCが含まれるべきであると考えます：

- SHCは、日本の経済や国際交流の最重要マーケットのひとつである、北米（米国・カナダ）において、広く普及している国際標準です。2021年8月30日現在、1億5千万人以上の米国民がSHCの接種証明書を発行することが可能とされており、また、600以上の医療機関や、あわせて何百万回ものワクチン接種を実施してきたアメリカの大手ファーマシーチェーンでもSHCを採用しています。加えて、ニューヨーク州、カリフォルニア州を含め複数の州で、既にSHC標準をワクチン接種データベースとして採用しています。
- SHCは、英語のみならず日本語にも言語対応が可能です。また、パスポート情報とリンクしているが故に、パスポート所有者しか使用出来ない他のデジタル証明書のシステムとは異なり、SHCはパスポート情報の入力任意です。

- 高い相互運用性が必要とされるという点では、SHC は、日本の航空会社での試験運用が実施され、ハワイでも導入されているワクチンパスポートの国際基準のひとつである CommonPass ともリンクが可能です。

新型コロナウイルスの変異種による感染者の急増により、社会経済活動の回復の遅れに対する懸念が高まっています。速やかで、安全な活動の再開には、ワクチン接種、ならびにワクチン接種証明や PCR 検査証明のデジタル化が急務です。この点において、新型コロナウイルス対策や、ワクチン接種促進の総合的な方策を継続するとともに、日本経済にとって極めて重要な国際往来の安全な再開を円滑に進めるための、さらには政府や自治体、団体、企業等による、日本国内における施設利用許可を行うためのデジタルワクチン証明書の基準のひとつとして SHC の採用を日本政府に要請いたします。

以上

###